ジョイフル コミュニケーション!
Salesian Bulletin Japan

ドン・ボスコの風

No. 22
May 2019

特集

聖なるものになろう?

【連載インタビュー ドン・ボスコの教え子たち】TIDEiSun Group（泰徳陽光集團）日本代表 **名和 清朱さん**

【ドン・ボスコのトモダチが暮らす街】**グンボ／南スーダン**

【つながれ! サレジオ青年 SYM JAPAN】**第19回 SYMの集い☆スペシャル 総長と若者の集い**

【サレジアンピープル Book編】**“「愛」と「再生」の物語”** 小説『光の人』

Message from Fr. Provincial

こんにちは！濱口です

幸いなサレジオ家族をめざして

サレジオ会日本管区長
使徒ヤコブ　濱口 秀昭 神父
2019年5月24日　扶助者聖マリアの祭日に

私は個人的な目標として「明るく前向きに、笑顔で生きること」を心の中に掲げています。今年のサレジオ家族年間目標（ストレンナ）の「聖なる者になろう」という呼びかけは、私にぴったりですし、私たちサレジオ家族やキリスト者にとって、この1年に限らず、一生涯に与えられたメッセージなのかなと思います。

フェルナンデス総長は、世界80か国以上を訪ねて様々な人びとと出会い、耳を傾けて感じ取ったものを分かち合ってくださいますが、今年1月に行われたサレジオ霊性週間の実りとして「サレジオ家族の7つの幸い」を紹介しています。

①貧しさの中にある若者に耳を傾けるサレジオ家族、②よき牧者の柔和と愛を示しながら若者を教育するサレジオ家族、③希望をなくした人に寄り添って希望を与えるサレジオ家族、④若者たちが夢や人生の計画を実現できるよう寄り添うサレジオ家族、⑤いつくしみをもって温かく歓迎し耳を傾けるサレジオ家族、⑥一人ひとりの内に神が働いておられると認める“愛のまなざし”を育むサレジオ家族、⑦困難や苦しみ（十字架）を喜びをもって受け止めるサレジオ家族、そのような私たちは幸いだというのです。

私たちだれもが、日常生活の中で「聖なる者になろう」という神の呼びかけに答えることができます。「自分はふさわしくない」という罪意識やあきらめを感じている人がいるかもしれません。でも、イエスさまはむしろ、あなたをこそ優先的に招いておられます。ドン・ボスコの生き方にならって、一緒に励まし合いながら、幸せになることを恐れずに歩んでまいりましょう。

2018年11月、調布サレジオ神学院にて、左から荒川譲二神学生（2019年3月に初誓願）、濱口秀昭管区長、アンヘル・フェルナンデス・アルティメ総長、春山ミカエルラップ副管区長

はまぐち　ひであき

1958年長崎県佐世保市生まれ、61歳。長崎南山高等学校、上智大学を卒業、32歳で司祭叙階。東京サレジオ学園副園長、高松教区会計、調布サレジオ神学院長、サレジオ会日本管区副管区長などを務め、2018年6月より日本管区長。趣味は自然を味わうこと（海遊び、登山、魚・山菜料理を食べる、写真撮影など）。

ジョイフル コミュニケーション!
ドン・ボスコの風　Salesian Bulletin Japan　No.22　May 2019

Contents　もくじ

4 特集 聖なるものになろう?
若者の声　アンケート
フェルナンデス総長・教皇フランシスコのメッセージ
ストレンナ2019を深めよう!
聖なる者になる――キリストの喜びになじむこと　阿部 仲麻呂 神父

10 サレジアンピープル（Salesian People）【BOOK編】小説『光の人』 今井 彰 著
“「愛」と「再生」の物語　小説のモデル　長谷場 夏雄 さん”

12 ドン・ボスコのトモダチが暮らす街 Don Bosco Amici
グンボ／南スーダン共和国

14 連載インタビュー　ドン・ボスコの教え子たち　TIDEiSun Group日本代表 名和 清朱（なわ きよみ） さん

18 総長来日レポート　アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父 ようこそ日本へ

20 つながれ！サレジオ青年　SYM JAPAN　Salesian Youth Movement Japan
第19回 SYMの集い☆スペシャル 総長と若者の集い
イエスと共に歩いた イスラエル！　サレジオ青年イスラエル巡礼

24 サレジアン スクールライフ! レポート

30 Salesian Family member interview　「今、私「○○」しています！」
サレジアン・シスターズ修道女　赤木 純子シスター
「青少年の救いのために働くシスター」をしています!

31 サレジアンライフストーリー　ドン・ボスコのように生きる
ありがとう!藤川長喜神父 ひょんなことから神へと導かれた人生

16 世界のサレジオ家族ニュース / **26** サレジオ家族 国内ニュース / **29** サレジオ情報募集

今号の表紙

昨年11月に来日したサレジオ会のフェルナンデス総長は、大きな愛と情熱をもって語らい、感謝し、勇気づけてくれた。サレジオ家族が一致して、助けを必要とする人と共に歩む生き方を証ししようと。

ドン・ボスコとは?

「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯をささげた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味）。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。1934年列聖。

サレジオ家族とは?

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、31団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジアンファミリーとも呼ばれる。

サレジアン・ダイアリー　vol.05

「子どもと共に過ごすこと」

「ねえ、えんちょう、遊ぼう!」「田村さん、聞いてよ～。今日こんなことがあってさ…」子どもたちは様々な形で大人を求めてくる。管理職になってからも時折、子どもたちの生活の場に入って、掃除や洗濯等の家事をしたり、一緒にご飯を食べたり、宿題をみたり、たわいもない会話を楽しんだりしている。「安心して自分を委ねられる大人の存在をベースにして、子どもの生活はひろがっていく」のだ。児童養護施設で過ごす何気ない日常生活がそうなるには関わる大人の存在が大事で、私もその一人であるように心がけている。ドン・ボスコも言っている。「子どもたちの好きなこと、子どもらしい望みに、先生も加わることです。」

田村 寛 神父
たむら　ひろし

1971年生まれ。47歳。児童養護施設「東京サレジオ学園」園長。趣味は登山と温泉。

特集

聖なる者になろう?

「聖なる者」――
身近な言葉ではないし、一体どんな人物のことなのだろう？
それに「なろう」と呼びかけられても……戸惑ってしまう。
「聖なる者になろう」というサレジオ家族の年間目標は
今年秋に日本を訪れる教皇フランシスコからの
すべての人への呼びかけだ。 ●構成／編集部

「なんかすごいよくわかんないパワーをもった人になるってことですか？」――そんな疑問を感じる人も少なくないでしょう。

編集部では10代から30代の若者約150人にアンケートを行い、2019年のサレジオ家族年間目標（ストレンナ）「聖なる者になろう」について感想を尋ねました。多くの若者たちが率直に、自分自身の生き方を真剣に考えながら回答を寄せてくださいました。

若者たちの声と共に、サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父と、教皇フランシスコからの呼びかけを紹介します。

若者の声
Voices of the Young

Q1
聖なる者ってどんな人だと思う?

神さま・聖人・聖職者

- 普通の人間では並ぶこともできない、神さまのイメージ
- イエスさまのような人。ほど遠いなぁ～
- 聖人とか天使のように、神に仕える者
- 奇跡を起こす人
- 聖なる者=聖人とは違うの?
- 神父様やシスター

平等で裏表がない人

- 弱い人にやさしく手を差し伸べる人
- だれにでも分け隔てなく接する人
- 無欲で正義感が強く、自分の利を考えないで行動できる人
- 相手によって裏表を使い分けず、淡々とやるべき務めを果たす人

愛にあふれる人

- ほほ笑みのイメージ
- 博愛主義者
- 心が愛に満ちあふれている人
- 思いやりのある人
- 「善きサマリア人のたとえ」がイメージにぴったり

清く正しい人

- 欲を抑えて精進する人
- うそや偽り、けがれのない潔白な心の人
- 尊敬できて、心清く、他の人を大切にできる人
- 神さまの前で正しく、素直で、人びとの模範となる人

自分より人のために生きる人

- 自分より相手を大切にする人
- 損得を考えず人のために行動できる人
- マザー・テレサみたいに無償で困っている人を助ける人
- 他人に奉仕することを惜しまず、それに喜びを感じられる人

信仰篤い人

- イエスさまのように、神さまを愛し、人を愛し、ゆるすことのできる人
- 自分の苦しみや困難をささげる人
- 神さまのみ旨を喜んで生き、日々の生活を祈りと行いをもって神さまにささげる人
- よく祈る人
- ドメニコ・サヴィオやドン・ボスコのように、イエスさまの声に耳を傾け、自分のできることを真剣に考えて、その使命に対して全力を尽くす人

すべての人が聖なる者

- 神に祝福を受けた人、つまり皆一人ひとり
- 神さまに愛されている者、だから基本的にすべての人が聖なる者だけど、特に「神さまから愛されていることを知って、その愛を自分も与えようとしている」人

サレジオ会総長
アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

フェルナンデス総長からのメッセージ

なぜこの目標?

総長 「聖なる者（Holiness：聖性）」という言葉は、とても違和感のある耳慣れない言葉でしょう。今年のサレジオ家族年間目標（ストレンナ）は「聖なる者になろう――わたしの喜びがあなたがたの内にあるように」です。このテーマは、教皇フランシスコの使徒的勧告『喜びに喜べ』が元になっています。

だれに呼びかけているの?

総長 教皇フランシスコは、聖性への招きは普通の日常生活を送る、普通の人びとに向けられた招きですよ、と呼びかけています。全世界のサレジオ事業所に関わる教職員の皆さん、保護者の皆さん、生徒や若者の皆さん、全員が呼びかけられています。なぜなら、イエスが「わたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしよう」（エフェソの信徒への手紙1章4 - 6節）と招いてくださるからです。

どんな人が「聖なる者」?

総長 教会の歴史には、信仰、愛、生き方をもってともし火のような存在となり、今も照らし続ける人びとがいます。この聖なる人びとは、英雄的な徳や、ある時には殉教という犠牲によって聖性を生きました。

教皇フランシスコはまた、名もない聖なる者たちを思い起こします。「必ずしも彼らの人生は非の打ちどころのないものではなかったかもしれません。それでも彼らは、過ちや失敗をおかしても前向きであり続ける、主の心にかなう者」（『喜びに喜べ』3）です。私たちの身近にも次のような聖なる生き方を歩む人がいるでしょう。

- **愛における成長の美しい道を歩む夫婦**
- **親として成長し、円熟し、しばしば隠れたまま知られることのない犠牲をささげながら、自らを惜しみなく子どもたちに与える親たち**
- **家族の生活を支えるために一生懸命に働く人**
- **穏やかな心で、信仰をもって、苦しむイエスとの一致の交わりのうちに病を担う人**
- **人生をささげきり、ほほ笑みも、希望も決して失わない高齢の人**

ドン・ボスコの教え子にも「聖なる者」はいる?

総長 ドン・ボスコは自らも幼くして父を亡くし、母マルゲリータの賢明な判断により家を離れて暮らす経験をしました。そして、サレジオの事業が特に「貧しく、助けを必要とする青少年」のためにささげられることを望みました。

サレジオ家族にはカトリック教会公認の聖人・福者・尊者・神の僕と呼ばれる先人が168人いますが、そのうち29歳以下の若い聖人・福者は46人にのぼります。ドメニコ・サヴィオ、ラウラ・ビクーニャ、セフェリーノ・ナムンクラ、アルベルト・マルヴェッリ……彼らは、人生の物語に深い傷を刻まれた若者たちでしたが、ドン・ボスコとの出会いによって「聖なる者」に成長していったのです。

現代の私たちもドン・ボスコのように、多くの問題を抱えた若者たちと出会います。ドン・ボスコの家には、悲しい事情によりさまざまな形で傷ついた人びとを受け入れる温かい居場所があります。私たちは傷ついた彼らと共に、聖なる者になれるのです。

若者の声
Voices of the Young

Q2
聖なる者になろうって言われたらどう思う?

なれるの?

それって自分もなれるものなの?

聖人ははるか遠くの存在で自分とは関係のないものなのだと思っていました

どうしたらなれるの? なろうと思ってなれるものなの?

なれない・難しい

すごく荷が重い印象をもちます

自分はふさわしくないと感じます

「聖なる」って言葉は聞き慣れないし、すごく大変なことをやらなきゃいけない気がして、ハードル高そうで尻込みしちゃうかな……

難しい!　理由は自分が「聖なる者から程遠い存在」だと感じてるから。でも「聖なる者になる」っていう目標があると、日々の1つ1つの行動に指針ができる気もします

写真：©L'Osservatore Romano

Message from Pope Francis

教皇フランシスコのメッセージ

日常生活の中で、あなたも聖なる者になれる!

教皇フランシスコは、聖人になるのに、司教・司祭・修道者である必要はないと言い、こう続けます。

教皇　「それぞれが置かれている場で、日常の雑務を通して、愛をもって生き、自分に固有のあかしを示すことで聖なる者となるよう、わたしたち皆が呼ばれているのです。

あなたは奉献生活に召し出されたのですか。喜びをもって自分の献身を生きることで、聖なる者となりなさい。

既婚者ですか。キリストが教会にされたように、あなたの夫、あなたの妻を愛し大切にすることで聖なる者となりなさい。

あなたは労働者ですか。兄弟姉妹に仕える自分の仕事を誠意と能力を尽くして果たすことで、聖なる者となりなさい。

あなたは子や孫をもつ身ですか。イエスに従うことを幼い子どもに根気強く教えることで、聖なる者となりなさい。

あなたは権限ある立場の人ですか。共通善のために闘い、己の利益を顧みずに務めることで、聖なる者となりなさい。」（『喜びに喜べ』14）

ドン・ボスコの願いは?

総長　ドン・ボスコは1884年5月10日付のローマからの手紙の冒頭で、少年たちに次のように書いています。「私の望みは、ただ一つです。きみたちがこの世でも永遠の世界でも、いつも幸せであるように。」

聖なる生き方とは、神の愛に守られ、救われているという体験です。そして、その忠実な愛に応えられるようになることです。

ドン・ボスコの勧めは?

総長　ドン・ボスコはドメニコ・サヴィオに、苦行することよりも、祈りの生活、勉強、務めを良く果たすことに忠実に励み、仲間と一緒に遊び、日常生活において人間関係を大切にすることを勧めました。「聖なる生き方とは、とても快活であることなんだ。」

なりたい・なろうと思う

目指したいと思うし、わくわくします。みんながほんとにこれを目指せるようになったら素敵だなぁ

「聖なる者」というイメージは自分には届かないくらい上の存在のように感じます。でも、少しでも理想の自分になれるようになりたいとも思います

自分にできるのか不安。一緒に頑張りたい仲間が必要。一人一人が考える答えは違うかもしれないが、最終的には神に適うものとして向き合えると思える

★アンケートにご協力くださった皆さん、ありがとうございました!
誌面の都合で掲載できなかった方、ごめんなさい!

Check Points

きみも聖なる者になれる!
フェルナンデス総長のススメ

聖なる者になるために、自分らしさを失ったり、仲間から遠ざかったりする必要はありません。むしろ、豊かな人間らしさをもって他者と関わりながら、充実した生活を歩むことが大切です。

- □ 日々の生活を、神の愛のうちに生きよう。自分の務めを良く果たそう。
- □ 祈りの人、祈る共同体になろう。
- □ 悪を退け、善い人でいるというだけでなく、善いことに情熱をもち、喜びあふれる姿勢で愛の行いをしよう。
- □ 一緒に聖人になろう。独りで聖人になることはできません。独りで神に救われるのではありません。
- □ すべての人生に使命があることを理解しよう。一人ひとりのうちに特別な美しさがあります。
- □ 真福八端（マタイによる福音書5～7章）は、いつくしみをもって見、行動するよう導きます。他者を助け、ゆるそう。心を清く保ち、神と隣人への愛を損なうものから自由でいよう。平和と正義の種をまき、人びとの間に橋を築こう。理解されず、身に覚えのない中傷を受けるときも、その迫害を受けとめよう。
- □ ささやかな行動を通して成長しよう。

具体的に取り組みたい

私たちも周りの困っている人や苦しんでいる人たちを、たとえ救うことができないとしても、支えることができたなら「聖なる者」に近づけると思います

人のために何かして喜んでもらえるのはとてもうれしいことなので、それを日々積み重ねていく1年にしていきたい

席を譲るとか、誰かに笑顔を向けるとか、明るい接客をするとか。「この人と会えてよかった」と思ってもらえる言動をすること。それが自分にできる、「聖なる者になる」ということかなと考えています!

自分に与えられてるものってなんだろうかとキチンと考えてそれを見つけ活かせていけるのがベストなんじゃないかな?

自分の置かれた場所で頑張ろうと思う

自分はどう生きていくべきか、もっと深く考えないといけないなと反省してしまいます……社会人になり時間的にも心にも余裕が少なくなってついついイライラしがちで、それでも穏やかにどんな状況でも落ち着いて生きていきたいな。清い心をもつ人になりたいなって…

ドン・ボスコがドメニコ・サヴィオに言ったように、喜び、祈り、周りの人に良くする年にしようと思います。「聖なる者」は、神様にも人にも自分の大切なもの、例えば時間などをささげていたと思うので、私もそこを頑張る年にしたいと思います!

引用参考文献
・サレジオ会総長書簡　最高評議会報429号「わたしの喜びがあなたがたの内にあるように　聖なる者になろう　サレジオ家族年間目標ストレンナ2019」2019年1月1日
・教皇フランシスコ著『使徒的勧告　喜びに喜べ　現代世界における聖性』カトリック中央協議会　2018年

イラスト：©鈴木ぐり

Seminar　ストレンナ2019を深めよう！

聖なる者になる――キリストの喜びになじむこと

阿部 仲麻呂（あべ なかまろ）神父

サレジオ会司祭。神学博士。福岡・東京両カトリック神学院、上智大学、桜美林大学などで講師を務め、全国で信仰講座や黙想指導を行っている。

無茶な目標？――聖なる者になろう

今年のサレジオ家族の年間目標は「聖なる者になろう」という呼びかけになっています。しかし、いきなり、聖なる者になりましょう、と言われても、わかりにくいかもしれません。そして、無茶だと感じるかもしれません。自分にはできない、と。しかし、教皇フランシスコの『喜びに喜べ』という本の内容はヒントになります。喜んで生きるように、という結論になっています。

キリスト教が2千年間強調している「喜び」とは何かと言えば、決して人間的な感情にもとづくひとりよがりな喜びではありません。むしろ、「キリストの喜びをまねすること」です。それゆえ、キリストがどのように相手と関わって、いっしょに笑顔で意気投合していたのかを、聖書を読んで学ぶ必要があります。

根拠になる聖書箇所は次のとおりです。「わたしの喜びがあなたがたのうちにあるように」（ヨハネによる福音書15章11節）。キリストが弟子たちに対して述べている言葉です。つまり、キリストの喜びが弟子たち一人ひとりの心の奥にもありますように、という真剣な願いの言葉です。イエス・キリストが弟子たちを集めた理由は、自分の喜びを伝えるためでした。ですから、現代の私たちも、キリストの喜びを受け継ぐ必要があります。

喜びの3つのレベル――個人・共同体・宇宙万物

ところで、「キリストの喜びが何か」を教皇フランシスコがさまざまな説教や著書のなかで説明しています。彼は「喜び」を説明するときに、3つの単語を使い分けています。

①Gaudium（ガウディウム）「安心感、心の安らぎ、うれしさ」
キリストと出会って、いっしょに生きるときのうれしさのことです。

②Laetitia（レティティア）「相手との親しいやりとりによる楽しさ」
友情・恋愛・夫婦愛・家族愛・師弟愛・同朋愛など、誰かといっしょに会話をはずませて生きることは、しあわせを実感する出来事になります（こうした喜びについては『愛の喜び』という本のなかに詳しい説明が書かれています）。

③Exsultatio（エクスルタティオ）「あらゆる生き物同士の響き合いをとおして宇宙万物が神を讃美している状態」
12世紀のアッシジの聖フランチェスコの生き方を思い出すとよいでしょう。彼はあらゆる生き物に親しみをもって語りかけて、いっしょに祈りながら神を讃美して旅をつづけました。草花も小鳥たちも太陽も月も、すべてはおたがいに影響をおよぼし合って神に心を向けて歌を歌うことができます。

日本語に訳すと「喜び」ですが、教皇は3つの意味合いをもたせて「喜び」の意味の豊かさを味わっています。つまり教皇は「喜び」を理解する際に、**①個人レベルの喜び、②共同体レベルの喜び、③宇宙万物レベルの喜び**、という3つの次元を区別しています。キリスト者は「喜び」の多様なレベルをすべて連続させて、壮大な価値観を創造するように、教皇から励まされています。

独りで、自分さえよければと、心を閉ざして、ひそかに小さな楽しさだけで満足しようとする人がいるとすれば、もったいないことです。自分で自分のチャンスを狭くしているからです。教皇フランシスコは、みんなを励まして、冒険させようとしています。「出かけてゆきなさい！」という呼びかけをくりかえしていますが、心を開いて喜びの幅を広げることを力説しているのです。しかも教皇は、人間社会の発展だけにとどまらず、地球全体のあらゆる生き物をも含めた大きな環境家族や宇宙全体の調和による支え合いにまで目を向けようとしています（『ラウダート・シ』という回勅を読んでみてください）。

絵／阿部仲麻呂

キリストとの親しさを増す――聖なる生き方

キリスト教の洗礼を受けた人は毎週日曜日に教会に通ってミサにあずかります。どうして教会に通うかと言えば、実はキリストに会いに行くわけです。とくに、ミサは、キリストといっしょに過ごすひとときです。ミサの第1部は「ことばの典礼」で、第2部は「感謝の典礼」です。前半部では、聖書の朗読を聞いてキリストの生き方を学ぶチャンスがあります。後半部では、キリストのからだとなるパンをいただいて、キリストを身に受けることで一致してキリストのように生きる勇気を身におぼえるチャージのチャンスがあります。

ミサのなかで、「学び」と「いのちのエネルギー」という2段構えのチャージを毎週つづけることで、「キリストとの親しさを増す」ことができます。そういう2つの勇気づけを得て、キリスト者はキリストと深く出会い、その生き方をまねして、社会で活躍します。第二のキリストとして。キリストのように喜んで相手を支えて生きることが「聖なる姿」です。ミサに参加すればするほど、キリストとなじんでゆき、キリストと同じ気持ちになって、ミサ後に社会に向かって派遣されてゆき、心の喜びを伝えること（福音宣教）ができるようになります。

キリストの心に自分の心をなじませることができれば、おのずと喜びが生じてきて、周囲の人びとを大切にし、環境にも配慮することができるようになります。いっしょに生きて、いっしょに喜んでゆきたいという意欲がわくときに、ますます熱心に周囲の人びとに関わり、環境を最善の状態に導こうと努力する姿勢が深まります。人生を誠実に生きている人の姿はかっこよく、品位があります。その姿を見た周囲の人びとも、おのずと集まってきます。好感をもたれるような魅力あふれる人のまわりには、多くの仲間が集うことになります。聖なる者は、喜びとおだやかさ、あるいは、かっこよさと品のよさのゆえに多くの人びとからも尊敬され、影響をあたえます。

皆さんも自分の友人に会って、楽しい会話をしながらさまざまなことを学び、心にエネルギーをチャージしてから家に帰ると、新鮮な喜びを全身で実感して、生きていることがほんとうに意味深く感じられることがあるでしょう。それと同じです。

いっしょに生きることで聖なる者になってゆける

実は、人間は独りでは聖なる者にはなれません。誰かといっしょに歩むときに、聖なる者に成長してゆけます。マラソンをイメージしてみてください。マラソン選手は、練習のときにペースメーカーをとなりに走らせます。つまり、伴走者を横につけるのです。ペースメーカーとは、走るペースをうまく創り出す者のことです。独りで走れば、楽をしようとしたり、さぼる場合があります。しかし、横に伴走者がついていれば、勝手に手を抜いたり、休むわけにはゆかなくなります。伴走者がせっかく大事な時間を捧げて横にいてくれるわけですから、選手も伴走者の努力に見合うだけのがんばりをつづけることになります。

そして、時として伴走者はペースをあげて走行技術や意欲を高めるため急に速度を上げたりします。すると、選手もついてゆこうとして必死に走りつづけます。気づかないうちに高いレベルに昇ろうと努力をすることになります。こうしてみると、独りで走っているときよりも、伴走者が横にいるほうが熱意が倍増します。

聖なる者になるときも同じです。真剣に生きている誠実な大人がそばにいれば、子どもたちもおのずとからだ全体で学んでレベルの高い生き方を目指せるようになります。大人のほうも、子どもから見られていることを意識して、常に気をぬかずにまじめに過ごします（大人も独りで過ごせば、気をぬいて適当に生きてしまう場合があるわけです）。大きな心で相手をつつみこむような寛大な姿勢で生きる誠実な大人と、純粋に目標に向かって前進しようとする子どもがいっしょに協力して歩むときに、おたがいに影響をおよぼし合って、気づかないうちに聖なる者になることができます。

サレジオ家族は、相手を迎え入れて、大切にもてなし、親しみのある対応の仕方を心がけていることでしょう。創立者のヨハネ・ボスコが常に子どもたちを大切な客人として迎えて、いっしょに談笑し、あそび、勉強し、祈り、音楽を奏でたように。その楽しい雰囲気を私たちも受け継いで、身近な人たちに心をこめて接してゆけば、いつのまにか聖なる者へとレベルアップしてゆくことができます。いっしょに生きて、相手を尊敬して、愛情をこめて関わることが、親しみを増す聖なる生き方につながります。すごく簡単なことです。

おすすめの本

教皇フランシスコ著

『使徒的勧告　喜びに喜べ　現代世界における聖性』

カトリック中央協議会　2018年

Salesian People
サレジアンピープル【BOOK編】
サレジアンな人たちをモデルにした本を紹介します。

小説『光の人』
今井 彰 著
文藝春秋　2018年
四六判上製　346頁

小説のモデル
長谷場 夏雄 さん
はせば・なつお

1929年生まれ。社会福祉法人青少年福祉センター創設者。戦時中に両親を失い、戦後17歳で弟を連れて帰国。東京サレジオ学園で指導員として働く。神父を目指し神学校に入り、大阪星光学院で英語教師として働く。児童養護施設を卒業後、住み込み就職したが退職した高齢児童が、仕事も住む場所もない状況を見かねて、1958年、豊島区に四畳半のアパートを借り、日本初となる児童養護施設のアフターケア施設の運営を開始。1961年、財団法人に認可され、名称を青少年福祉センターとした。

「愛」と「再生」の物語

終戦後の日本、ドン・ボスコを体現した一人の男がいた。戦災孤児の自立支援の家としてスタートし60年、現在は児童養護施設を退所した若者たちの自立援助ホーム等を運営する青少年福祉センターの創設者、長谷場夏雄さんだ。彼をモデルにした生涯が小説となって結実した。千人の孤児を救うために生涯を捧げた男の愛の物語である。（取材・構成／編集部）

戦災孤児と共に未来を切り開く物語

太平洋戦争末期、東京大空襲などによって、多くの戦災孤児が生まれた。昭和23年2月発表の厚生省児童局調査によると、戦災孤児の数は123,512人に上った。実際は統計よりはるかに多かったという記録もある。彼らの多くは学童疎開で地方に行っている間に、都会に残った家族を空襲で失った10歳前後の子どもであった。

敗戦国日本の政府は無力で、無慈悲であった。孤児たちは孤児院に入れられはしたが、劣悪な環境のなか脱走し、悪の道へ入る者も多かった。孤児院に残っていても中学卒業の15歳になれば、施設から出されて住み込みの就職に。しかし、仕事を解雇されると戻るところがなく結局少年ホームレスになるか悪事を働いて鑑別所送りとなるケースが多かったのである。

この小説の主人公である門馬幸太郎は、こうした戦災孤児を見るに見かねて手を差し伸べる。彼らが本当に人間らしく生きるために、家を作らなければならないと決意。職も我欲も投げうって、アパートを借りて4人の少年と共に住み始める。門馬はさまざまな困難に敢然と立ち向かっていき、ときに奇跡的な助けもあって少年たちと共に未来を切り開いていく。

小説の実在のモデル

この小説には実在のモデルがいる。児童福祉の世界では名を知られる長谷場夏雄さんである。長谷場さんは、青少年教育を使命とするサレジオ会で神父を目指していたが、以前施設で世話をしていた戦災孤児卒業生に乞われ、修道会を離れて彼らと向き合っていった。今でこそ国からの援助があるが、当時は行政の目が行き届かなかった孤児院出身者のための高齢児童養護機関を始めたのである。戦災孤児の自立支援の家としてスタートした社会福祉法人青少年福祉センターは60年にわたって、家族や社会から見放された青少年たちの居場所を提供し続けているのだ。NHK「プロジェクトX」の元プロデューサーである著者の今井彰さんは、パーソナリティをつとめるラジオ番組で長谷場さんと出会い、その生き方に感銘を受けてこの小説の構想を得たという。それ以来取材を重ね資料を集め、書き下ろし小説として、彼の人生を結実させた。

「私の心の中にいるのはドン・ボスコです」

ところでなぜ門馬はここまで無償ともいえる愛を示すことができるのか。小説後半で描かれる、実弟に対する悔やみだけではないはずだ。グループホーム立ち上げの際に発した、次の門馬のセリフが鍵のようだ。

「私の心の中にいるのはドン・ボスコです。十九世紀、イタリアの港町で飢えていた浮浪児を何百人となく援け生活を共にし、子供たちを救うことに一生を捧げた聖人です。グループホームの原点は、彼の教育理論の中にあると思っています。」（p.248）

モデルとなった長谷場さん自身、サレジオ会を去っても、青少年と向き合うときに常に心の指針としてきたのはドン・ボスコのやり方であった。ドン・ボスコの次の言葉を思い出す。「子どもたちを愛するだけでは足りない。子どもたちが愛されていると感じるように愛しなさい」。長谷場さんには、愛されたという確かな体験があったに違いない。だからこそ、そのように子どもたちを愛していけたのだと思う。小説では、この愛が次世代へと続いていくところで終わっている。伝わる愛の物語だ。

社会福祉法人　青少年福祉センター
http://wfc.or.jp

Interview
『光の人』著者 今井彰さんに聞く

長谷場さんとの出会いは?

私はかつてJFNラジオのパーソナリティをやっていました。2011年4月に新しいラジオ番組を始めたのですが、東日本大震災の直後で、震災のことを番組で取り上げることになりました。この震災で244人の孤児が生まれたという情報があり、取材する中で、戦後、孤児対策をずっとやってこられた方として紹介されたのが長谷場さんです。インタビューが進むにつれて、親が亡くなった子たちをずっと見守りながら過ごしてきたこの人はいったい何者だろうか？という疑問が膨れていきました。その後も彼のもとを訪ねいろいろ聞くうちに、いつの日か、これほど大きな愛を子どもたちに注ぎつくした男のことを書かなければいけないと思いました。

どの観点から書きたいと考えましたか?

もちろん、無償の愛です。最初のタイトルは『至純の愛』でした。しかし恋愛小説みたいだから変えてほしいと言われ、『光の人』にしました。愛がない時代だからこそ、愛のことを書かなきゃいけないと思いました。彼が神父を目指していたということやドン・ボスコへのものすごい傾倒も含めて、彼の人生は「愛とは何か」ということを貫いた人生だと思います。ですから、彼に出会った私は「愛って何だ」「人を愛するって何だ」「愛することで人はどうなりうるのか」ということを書きたくなりました。この小説を書くにはただ歴史的事実を述べるだけでは十分でなく、多くの孤児たちが生まれた背景を、リアリティをもって書くため時間をかけて調べました。

この小説に込めた思いは?

私が願ったのは、みんなに希望が開けてほしいということです。人生は簡単にボロボロになりますが、長い時間をかけて頑張っていけば立て直るのだよ、という希望を書きたいと思っていました。それが、門馬が言おうとしたことではないかと思うのです。ひとことで言えば、再生です。人は再生できるのだということ。登場人物はみんな必死になって技術を身につけて、再生を目指していきます。「再生」は非常に重要なキーワードとなるような気がしています。「愛」と「再生」の物語といっていいと思います。

今井 彰　いまい・あきら
1956年大分県生まれ。NHKで番組制作に携わり、「タイス少佐の証言」で文化庁芸術作品賞受賞、「埋もれたエイズ報告」で日本ジャーナリスト会議本賞を受賞。「プロジェクトX〜挑戦者たち〜」の制作を統括し、菊池寛賞、橋田賞を受賞。エグゼクティブ・プロデューサーを経て2009年退局。2010年、『ガラスの巨塔』（幻冬舎）で小説家デビュー。ほかに『プロジェクトX リーダーたちの言葉』『赤い追跡者』などの著書がある。

ドン・ボスコのトモダチが暮らす街

Don Bosco Amici

サレジオ家族が関わりをもつ
世界そして日本の風景を紹介します。

首都ジュバ近郊にあるグンボ国内避難民キャンプには4千人の避難民が暮らす。家庭で何も食べていない子どもが多く、オラトリオ（教会が運営する学校）の後に給食を提供している。写真はグンボのオラトリオの子どもたちと、イエスのカリタス修道女会宣教女の下崎優子シスター。

Gumbo *Republic of South Sudan*

グンボ／南スーダン共和国
公用語：英語

南スーダン共和国は東アフリカの内陸国。2011年にスーダンから分離独立したが、長年にわたる内戦や国境紛争による死傷者・避難民は数百万人にのぼり、2018年の停戦合意後も人びとの不安は続いている。サレジオ会は1982年から宣教師を派遣し、教会・学校・医療・福祉事業を展開。日本からも2012年よりイエスのカリタス修道女会が宣教女を派遣。南スーダンの人びとと共に困難な道を歩みながら、希望の光を灯し続けている。

連載インタビュー

ドン・ボスコの教え子たち

今、様々な分野で活躍しているサレジアンな同窓生を紹介します。

● 取材・文／編集部

なわ　きよみ

1971年埼玉県さいたま市生まれ。星美学園中学校・高等学校卒業。日中学院（中国語専門学校）卒業後、美術商に就職。その後、北京での定宿「北京飯店」の居心地のよさに魅かれ、北京飯店マーケティング部に転職。第1回六者会合（六カ国協議）の日本のプレスセンター等も担当。現在はTIDEiSun Group（タイドアイサン・グループ　泰德陽光集團）日本代表を務める。

We are DB's Students

TIDEiSun Group（泰德陽光集團）日本代表

名和 清朱さん

サレジオ歴／星美学園中学校・高等学校OG

海外への興味がきっかけで学び始めた中国語と、好きな美術に関わる仕事の縁で中国へ。人とのつながりの中で、様々な興味深い仕事と出会ってきた。現在は最新のIT技術で世界に貢献する中国企業の日本代表として働きながら、中国と日本の橋渡しに尽力している名和清朱さんに話を伺った。

星美学園に入ったきっかけは？

両親が決めたのですが、当時は校内暴力など、学校が荒れていた時代で、公立学校より私立学校がいいと思ったようです。実家の埼玉から近い星美学園は環境が良いということを、両親がどこからか聞いていたみたいです。それまで、キリスト教には何のかかわりもなく、家には仏壇と神棚があり、いわゆる、普通の日本人の家庭でした。宗教的なこだわりは、まったくありませんでした。

星美学園での思い出は？

学校は楽しかったです。先生たちも優しくて。校長先生は怖かったですが（笑）、先生たちが生徒たちの中に入っていて、生徒との距離が近いイメージがあります。何でも話しやすかった記憶があります。今、仕事でいろいろな方々と楽しくお付き合いできるのは、あの時の特別な環境が今にも響いているなと感じます。

扇千景国土交通大臣（当時）を北京飯店で迎える。官民一体で日本技術をセールスする熱く濃いミッション。

特に美術部顧問の宮本先生は、何をやっても否定することはなかったですね。宮本先生には幼稚園の頃のお絵かき教室でもお世話になっていて、美術部ではのびのびとさせていただきました。

それから、月に1回おむすび献金というのがありました。お弁当のおかずなどを犠牲して、その分を募金しよう、という趣旨のものです。とても心に残っていて、苦しんでいる人がいるときに、自分は少し我慢して、助けられることがあるのだなと感銘を受けました。世界中にいる、困っている人たちのどこかにこの募金は行くのだなと感じていました。誰かとのつながりや誰かのために、という気持ちは感じていたと思います。

卒業後の進路は？

学校では、高校3年生は受験をする場合は部活をやめるというのが通例でした。でも所属していた美術部はどうしてもやめたくなくて専門学校に行こうと決めました。探していたところ、「2年生で海外研修必修」という文字に魅かれて、日中学院（東京・文京区）という中国語の専門学校にしました。父が海外旅行好きで、よく土産話を聞いていたので、海外に行ってみたいという気持ちは前々からあったのですが、中国や中国語に特別関心があったわけではありません。それでも高校を卒業して、3年間中国語（共通語である北京語）を学びました。当時の中国は天安門事件（1989年）の直後で、戒厳令など治安が心配な状況でしたが、2年目の夏休みに6週間の短期研修に行きました。そのときは中国語を自分の一生の仕事にしようなどとは全く思いませんでした。

卒業後は、百貨店のギャラリーなどで中国の絵画を日本で展示する美術商に就職し、出張で北京に行くこともしばしばありました。5年務める中で、中国に出張する際によく利用していた↙

中秋節、各国・各界のお客様が北京飯店の屋上で名月鑑賞。写真中央は故・橋本龍太郎元首相。

成長しました。そしてそれが世の中の役に立っているということも感じています。今の時代はIT化などもあり、昔のように大きい会社に入って決められたことをやるといった社会ではないのかな、と思っています。やりたいことをどんどんやって、それが受け入れられる社会になってきていると思うので、自分のやりたいこと、興味があること、好奇心の向くことにのびのびとチャレンジしていくとよいと思います。

自分のやりたいこと、興味があることに のびのびとチャレンジしよう!

北京飯店（ホテル）ののどかで、家族のように迎えてくれる雰囲気が好きで、一度ホテルで働いてみたいなと思いました。日本はバブル景気の崩壊後でホテル就職なんて考えられない時代だったのですが、北京飯店への強い気持ちに後押しされ、北京飯店に通いつめ就職しました。

日中の政党間交流での訪中団も多く迎える。写真中央は神崎武法公明党代表（当時）、北京飯店にて。中国側が中国天津市生まれの代表の生家を探し当て案内。もてなす気持ちを学んだ。

職場では、困っていることがあるとみんなに声をかけ、みんなで考えるという雰囲気を大切にしています。みんなで可能な限り話し合って、サポートし合っています。それが次の「つながり」にもなっていきます。これは学校の中でも同じことだと思います。先生や友達とのつながりを大切にしてほしいです。

海外に出て思うことは、日本の社会はとても閉鎖的だということです。日本で報道される海外のニュースや出来事は、ほんのわずかです。仕事の仕方を比べてみても、日本では上司に口を出してはいけないという雰囲気がありますが、海外では仕事は仕事で区切りをつけ、上司に対してもはっきりと自分の意見を言い、仕事の自由度も効率も上がっています。

これからの世界は国境を越えて何でもできるようになっていきます。ですから、世界に目を向けて、日本にいながら、自分のできるところから世界中とつながることができることを忘れないでほしいと思います。

現在はどんな仕事を？

今は、北京にいた時の友人に紹介された会社に勤めています。人と人とのつながりの中で、仕事を渡り歩いてきた感じはありますね。私自身も日本と中国、主に北京とのつながりが深まるようお役に立ちたいと思っています。

現在はブロックチェーンの技術（仮想通貨を動かす技術で、電力の分配などにも応用できる）の研究開発をしている香港の会社に勤めていて、自社で開発したアプリケーションなどをいずれ日本向けに紹介したいと考えています。もともと衛星テレビ局の会社でインフラに重きを置いており、自社の技術で世界を平等にしていくことを考えています。

また、片手間ですが、仕事がひと段落している時には、日本の魚を北京に広める仕事もしています。私の人生を振り返ってみると、「人がつないでくださっている」という印象がとても強くあります。星美時代のおむすび献金のように、見えないところでも誰かとつながっているという感覚で、いろんなところに行き、いろんな人と関わることができたからだと思います。

若い人たちへのメッセージを

私の勤めている会社の技術は、若い人たちがやりたいことを追求していき、日本のメガバンクのシステムの下支えになるまでに

TIDEiSun Group　泰德陽光集團
https://tideisun.com

星美学園中学校・高等学校
東京都北区赤羽台4- 2-14
http://www.jsh.seibi.ac.jp

パナマ

ワールドユースデーinパナマ 教皇フランシスコと若者の集い

News Source: BoscoLink

世界中から集まった若者に迎えられる教皇フランシスコ

国旗を掲げるポルトガルの青年たちと

教皇司式によるミサ

2019年1月27日、推計で70万にのぼる人びとがパナマで開催された第15回世界青年の日大会・ワールドユースデーを締めくくるミサに参列した。教皇フランシスコは、はじけるような喜びの雰囲気の中、パパモービルに乗り、パナマ市郊外にあるメトロパークの聖ヨハネ・パウロ二世広場に到着。巡礼者たちは前日から、焼きつける陽ざしにもかかわらず続々と会場に着き、広大な敷地を埋め尽くしていた。

教皇は若者シノドス（2018年の世界代表司教会議）に触れながら、互いに耳を傾けることの必要性について語り、「私たちは旅を歩んでいます。歩き続け、信仰を生き、分かち合い続けましょう」と参加者に呼びかけた。

その前夜、60万の巡礼者が参加した祈りの夕べで教皇は、「人生はクラウドの中にあってダウンロードするものでも、新たに見つけるアプリでも、自己啓発のテクニックでもありません」と語り、人生をオンラインで生きる誘惑を退け、それぞれの共同体・社会に関わるようにと若者たちに訴えた。また、若者に関わる聖人たちを挙げ、ドン・ボスコが若者への愛と社会から疎外された人びとに心を向けたことに触れた。教皇は移民・移住者の立場を繰り返し擁護し、この地域をさいなむ貧困、麻薬売買、暴力、女性が虐げられていることなどの問題を取り上げ、教会を苦しめる性的虐待の問題にも触れた。

若者たちと共に参加したサレジオ会パプアニューギニア・ソロモン準管区のアンブローズ・ペレイラ神父は、「ワールドユースデーは私にとって、信仰の分かち合い、歩んで来た人生や問題、苦しみについて打ち明けてくれた人たちの涙、祈りに満ちた振り返りの、力強い体験でした。いちばん心に響いたことは、私たちが出かけて行き、若者、特に最も傷つきやすい弱さを持つ若者と共にいなければならないということです。人生の旅路にはつきものの苦労のただ中で、喜びあふれる祝祭でした」と分かち合った。

シエラレオネ

ラミン、傷痕を恥じ、聖人になる夢を抱く若者

News Source: ANS

将来、ストリートチルドレンを助けるために学びたいと語るラミン

ラミンは「ドン・ボスコ・ファンブル」として知られるNGO、サレジオの家に暮らす21歳の若者。この家は多くの路上生活をする子どもたちを受け入れ、家庭的な愛情のある環境で新たに生活を始められるよう支援している。

ラミンはある日、院長の執務室に現れた。非常に取り乱した様子の彼は単刀直入に打ち明けた。頭や腕の傷のこと、そして入れ墨のことが心配なのだと。それは彼の恥ずべき過去を、彼自身に、そして周囲の人びとに思い起こさせる傷だった。

両親を亡くしたラミンは、幼いころからシエラレオネの首都、フリータウンの路上で生活し、気転を利かせて自分の力で生き延びることをおぼえた。はじめは物乞いをし、やがて盗みを働くようになった。酒、マリファナ、コカイン、買春など、あらゆることを経験した。パデンバ刑務所で2年服役し、出所したとき、ドン・ボスコ・ファンブルに助けを求めたが、誘惑に負け、路上の世界に戻ってしまった。

再び逮捕されたとき再犯だったため、シエラレオネのやり方で「刻印」を押された。彼らはラミンの腕や指は折らなかったが、頭と腕をなたで切りつけ、また一生足をひきずるようにと、アキレス腱を切った。傷は「捕らえられたどろぼう」という、生涯消えない刻印を押すものだった。ラミンは自分がどん底に落ちたとわかった。そのことを認めた彼は、回復、更生、癒やしの旅を歩き始める。

ドン・ボスコ・ファンブルの院長は彼に言った。君の栄光はその傷にある、恥じてはいけないと。傷を隠してはいけない。「その傷痕は、回復する君の力と共に、どんなに低く落ちたとしても、人生は必ずやり直せることを示すものだ」と。

ラミンの人生は、限界を乗り越えることを教えてくれる。彼はもうすぐ中等学校を卒業し、ソーシャルワークの勉強をしたいと思っている。将来、ストリートチルドレンを助けるためだ。今、ラミンは言う。「僕は聖人になりたい!」彼の強い決意はドン・ボスコ・ファンブルの院長、ホルヘ・クリサフッリ神父さえ驚かせた。ラミンの抱く理想は、ようやく苦しみに満ちた過去を光で照らし、彼の人生は新たな方向づけと新たな意味を見いだした。

自分を現代の聖人だと思うかと、あるジャーナリストに尋ねられたネルソン・マンデラは答えている。「あきらめずに努力する、決してリングにタオルを投げ込まない罪人を聖人というなら、そう、私は聖人だ」。ラミンはあきらめない。

DBK ドン・ボスコ基金

DBK［ドン・ボスコ基金］は 特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。

DBKウェブサイト
http://salesians.jp/about/dbk
機関誌「DBKだより」バックナンバーもご覧いただけます。

DBK［ドン・ボスコ基金］では、ボリビア、モンゴル、南スーダン、東ティモール、日本国内など、世界各国のサレジオ関係グループによる青少年の保護育成プロジェクト等を支援しています。ご寄付くださる方は、下記の振込口座まで（または本誌とじ込みの払込用紙にて）お振り込みください。

郵便振替口座番号：00190-5-292253
加入者名：ドン・ボスコ基金
※通信欄の寄付意向にチェックを入れて、寄付金額をご明記ください。寄付者氏名の非公表をご希望の方は、払込用紙に「匿名希望」（☑チェックマーク）をご記入ください。

スリランカ

修練院の改修、子どもたちへの無償の授業

近隣の子どもたちに勉強を教える修練生たち

サレジオ会スリランカ準管区
ジョセフ・アルメイダ神父

スリランカのダンガルピティアにある、司祭をめざして勉強している修練生の寮（修練院）についてのお願いです。この修練院は、キリスト教徒が一人もいない仏教徒だけの農村に隣接しています。ここでは、スリランカ、バングラデシュ、インドから司祭をめざす学生が来て勉強しており、現在5人のサレジオ会員と17人の学生が暮らしています。

彼らは自身の勉学のほかに、近隣の若者たち、特に孤児や貧しい子どもたちに無償で勉強を教えています。約50人の子どもたちと約20人の若者たちが、英語や国語・算数を学ぶため、また、ユースセンターの活動に参加するためにやってきます。

司祭と修練生の住まいでもあるこの施設は、すでに老朽化しており、シロアリや蛾に浸食されて、健康的に生活できる空間がおびやかされています。建築業者によると建て直しが必要であり、費用の見積り額は約10万ユーロです。施設としての収入はなく、完全にサレジオ会に依存しています。

この建て直し費用を支援してくださることで、修練生たちがより健康的な生活と活動を実現できますように、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

シリア支援キャンペーン2019

シリアの子どもたちの未来のために

シリアのサレジアン・シスターズの幼稚園で

戦争で破壊し尽くされたシリアの町

戦争が続き助けを必要としているシリアの子どもたちのために、サレジアン・シスターズは世界中のサレジオ家族に「シリア支援キャンペーン」を呼びかけています。日本においては、DBK［ドン・ボスコ基金］が窓口となって、ご寄付を受け付けています。皆様のお祈りとご支援をよろしくお願い致します。

・・・

サレジアン・シスターズ
ローマ本部総評議員
シスター井上澄子

この度は、シリア支援キャンペーンを紹介させてくださり、ありがとうございます。私たちサレジアン・シスターズは、シリアの首都ダマスコに病院と幼稚園の2つの支部を持ち、戦況が少し治まった2017年にはアレッポの支部を再開し、小さな幼稚園を始めています。シリアは2011年から激しい内戦に苦しんできましたので、私たちの学校に来る子どもたちはすべて戦争のさなかに生まれ育った子どもたち、つまり、戦争の状況しか体験したことのない子どもたちです。戦争前のこの国の美しさを知っている大人たちは、多くの家族、親戚、友人を失って、今はまだ、子どもたちに夢を語る力を持ちません。子どもたちが描く絵は闘っている兵士、戦車ばかりです。

今、彼らに一番必要なのは、世界が彼らを決して忘れていないことを示す援助の手と、未来を築く子どもたちへの教育環境を整えることです。せめて私たちが提供する平和な環境の中で、シリアの子どもたちが、彼らを支える大人たちと一緒に将来の夢を描けるように、寛大にご支援くださるよう、心からお願い致します。

・・・

サレジアン・シスターズ
ローマ本部総財務
シスター・ヴィルマ・タッローネ

現在、シリアではサレジアン・シスターズが1つの病院、2つの幼稚園の経営をしています。長引く戦争状態のため、町は破壊され、見る影もない中で、人びとや子どもたちのためにシスターたちが活動を続けていますが、国の再建のためには教育がどうしても必要です。小学生や中学生のための学校建設を計画していますので、皆様のご支援をどうぞ、よろしくお願い致します。

ビデオ：
シリア支援キャンペーン2019
（YouTube 約8分）

シスター・ヴィルマ・タッローネによるビデオメッセージをご覧ください。（日本語字幕）
https://youtu.be/dAbfxWUxLDs

第11代 サレジオ会総長

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父 来日

ようこそ日本へ

若者と共に、喜びをもって生きよう

2018年11月7～13日、サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父が来日し、日本各地を訪問。サレジオ家族や若者と出会い、喜び祝い、語らう時を過ごしました。

羽田空港に到着 11月7日深夜、羽田空港に到着した総長と秘書のオラシオ・ロペス神父を40人以上のサレジオ家族と若者たちが出迎え、熱烈に歓迎。総長は長旅の疲れも見せず、一人ひとりと笑顔で挨拶を交わしました。

私たちは、結婚・家庭生活や奉献生活など様々な人生に招かれています。それぞれの**日常生活の中で、毎日の仕事のうちに、サレジオ家族の一員として生きる道のりを歩み続けてください**。

サレジオ家族の集い@東京

宮崎でサレジオ家族の集い 11月9日午前、日向学院中学校・高等学校（宮崎県宮崎市）で「サレジオ家族のミサと集い」が行われ、800人以上が参加。生徒の質問に総長は丁寧に答え、ロペス神父と一緒にギターと歌も披露しました。

チマッティ資料館を見学 11月8日午前、総長はチマッティ資料館（東京都調布市）を訪れ、最初の宣教師団について館長のコンプリ神父の案内で見学。チマッティ神父の墓前で、日本でのサレジオの働きのために祈りました。

サレジオ家族が一つになっていることに心を打たれました。**他者のために一致することこそ、私たちが世界に証しできる最高に美しいこと**です。

サレジオ家族の集い@東京

イエスのカリタス修道女会 宮崎修道院を訪問 11月9日昼、サレジオ家族の国際的グループに発展した同会の発祥地を訪問。様々な国の出身者からなる共同体のシスターたちから、日本の伝統料理や歌による歓迎を受けました。

サレジオ管区長館を訪問 11月9日夜、東京に戻った総長はサレジオ管区長館（新宿区）を訪問し、管区本部のサレジオ会員や協働者と親しく歓談。ドン・ボスコ社の倉庫も訪れ、広報出版部スタッフに感謝と激励を伝えました。

ドン・ボスコは最も弱い子どもたちのところに行くように願いました。**皆さんも世界各地で助けを必要とする若者たちのために働く使命があります**。

サレジオ家族の集い@東京

サレジオ会管区評議員との会合 11月10日午前、サレジオ神学院（東京都調布市）で総長を迎えてサレジオ会管区評議会を開催。夕刻には日本各地から集まった若者との「SYMの集い」が開催されました。→詳しくは次ページで！

知らないのに愛することはできません。相手を尊敬し、相手が自分にとって大切だと実感できるよう、お互いに知り合うことにチャレンジしましょう。

サレジオ家族の集い@東京

東京サレジオ学園を訪問 11月11日午前、総長は児童養護施設の東京サレジオ学園（東京都小平市）を訪問、子どもたちはハンドベルの美しい音楽を奏でました。総長は学園での生活について職員に質問しつつ視察しました。

東京でサレジオ家族の集い 11月11日午後、「サレジオ家族の集い」が星美学園（東京都北区）で開催され、400人以上が参加。サレジオ家族の活動紹介、総長の講話、ミサ、祝賀会が行われ、総長は大勢の人との記念撮影に快く応じました。

自分と違う考えをもつ人を理解する力を育ててください。そうすれば人生は楽にもなるし、もっと幸せになります。自分が完全な真理をもっているわけではないと理解しなければなりません。

サレジオ家族の集い@宮崎

自分の人生に対して、夢をもってください。 将来何をするかということではなく、**幸せでありたいと望むことです。そして他の人に奉仕していきたいと思えることが大切です**。

サレジオ家族の集い@宮崎

サレジオ会員との集い 11月12日午前、サレジオ神学院（東京都調布市）に日本のサレジオ会員40人以上が集合。総長は現実的な課題を示しながら、成熟したサレジオ会員になること、日本管区の将来を見据えて決断するよう励ましました。

フェルナンデス総長来日の記事や写真は、サレジオ会ウェブサイトの特設ページに掲載しています。
ぜひご覧ください！ https://salesio.jp/about/rm2018

サレジオ学院を訪問 11月12日午後、サレジオ学院中学校・高等学校（神奈川県横浜市）を訪問し、生徒・教職員約1000人の歓迎を受けました。吹奏楽部の演奏やジャグリング演技などが披露され、生徒の質問に総長は丁寧に答えました。

全世界のサレジオ家族の名において、
皆さんを抱きしめ、皆さんのために祈ります。
ありがとう!

サレジオ家族の集い@東京

つながれ！サレジオ青年
SYM JAPAN
Salesian Youth Movement Japan

第19回
SYMの集い☆スペシャル

総長と若者の集い

Salesian Youth Meets Fr.Fernandez

2018年11月10日(土)、カトリック調布教会と調布サレジオ神学院を会場に、第19回SYMの集いを開催！スペシャルと題して、訪日中のフェルナンデス総長をお招きしました。貴重な機会を味わってほしいと高校生にも声をかけ、星美学園やサレジオ学院、サレジオ高専、遠くは静岡サレジオ、城星学園、大阪星光学院、日向学院からも駆けつけてくれました。130人を超える青年たちと総長の交わりの様子をお届けします！

フェルナンデス総長、入場！

総長が入場すると、会場は一機に大盛り上がり！「Bienvenido（ようこそ）総長！」大きな拍手でお迎えし、くす玉を割って集いがスタートしました。総長のすてきな笑顔に、緊張していた皆もニコニコ☺

夕食

夕食はもちろん総長を囲んで。青年とたくさんお話してくださり、思い出の時間になりました。参加者のグループ紹介もあり、サレジオ家族のつながりを実感するひとときに！

レクリエーション

夕食の後は体育館に移動。SYMでお馴染みの「Himno Bienvenido Don Bosco」の歌で、総長も一緒にダンシング♪　大人数で踊ると迫力がありますね～

続いて、自己紹介をして皆のサインを集めます。青年たちは総長の前に列を成してサインをおねだり！

若者から総長への質問タイム

青年が質問するたび、総長は質問した青年をそばに呼んで、ツーショットを撮ってから、ていねいに答えてくれました。実際に行われたQ&Aのうちの一つを紹介します。

Q　世界的に見て、SYMはどういう運動ですか？

A　サレジオ家族がもっているすばらしいもの、それがSYMです。世界中の若者がSYMにいることで家にいるように感じています。すばらしいことです。私たちには共通の何かがあるということですよね。それは、サレジオのスタイルが好きだ、ということです。若者らしいやり方でサレジオのスタイルを進め、霊性も分かち合います。喜び、友情のすばらしさ、他人のすべてを受け入れる精神、こうしたことすべてがSYMです。これが、世界で起こっていることです。

現在140の国にサレジオがあります。どこへ行っても皆さんのような若者がいて、同じように感じることができます。この大きな贈り物、すばらしいことが続くよう望んでいます。私たちの後に続く人には、皆さんが今体験していることを同じように体験する権利があります。これは決して当たり前のことではありません。ぜひ将来の若者のことを考えましょう。ありがとう。

— 抜粋 —

総長から若者へのメッセージ

質問タイムに続いて、総長からお話をいただきました。自分の人生について深く考えさせられる、熱いメッセージの一部をご紹介します。

サレジオ会総長
アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

皆さんそれぞれにすばらしい価値・意味があります。人生の中で成長していくようにお願いします。寝るときの夢ではなく、将来の夢をもつようにお願いします。どんな若者にも必ず理想があるはずだからです。夢とは、何が私を幸せにするのかということ。人生の中でどうしたら満たされるのかということです。

世界を回るとはっきりと分かります。それは若者が皆、他者に奉仕したい、自分の時間を誰かのために捧げたいと感じているということです。ボランティア、信徒や宣教師など、誰かに奉仕するプロフェッショナルになるのです。息子のために生涯を捧げる母親になることもあるでしょう。

自分の人生が誰かのために捧げるものだと分かるとき、人は幸せになれます。テレビはそんなことを教えてくれません。政治家からも、スーパーでも聞けないでしょう。この深い真理は商業的ではないからです。大きな夢をもつということは、人生を誰かのために捧げるということ。会社のためではありませんよ、誰か具体的な人のためです。

もう一つ、皆さんの宗教が何であっても、神なしに生きることだけはしないでください。これは幸せのため、深い喜び、人生に意味を深く感じるためです。人生で何をしたいのか、私の人生は何のために役立つのか、幸せになるために何をすればよいのか……これが本物の質問です。ぜひ自分に質問してみてください。

もちろん、皆さんがいろいろなことを考えていることは知っています。ただ、自分自身、自分の価値・能力を信じてください。自分を貧しいと思うなら、それは違います。一人ひとり違うけれども、皆心が豊かなのです。ある人は寡黙だが他者によく仕え、ある人は寄り添って他者を心地よくする。ある人は音楽の才をもち、ある人はすてきな声をもっている……多くの価値があります。これが重要なのです。

皆さんにがんばって前に進んでくださいと言うためには、これで十分でしょう。皆さんを信じています。— 抜粋 —

聖体礼拝

最後は祈りで締めくくり！　総長が説教の中で私たちに与えてくださった沈黙を味わうヒント「イエスさまが私たちの心を抱きしめてくださっていること」を思いながら祈りました。

分かち合い

高校生から社会人、神父様やシスターを含めた幅広い年代の人と、グループになって分かち合い。総長の話を聞いた感想や、それぞれの夢、今感じていることを語り合いました！

ありがとう！
フェルナンデス総長さま

記念撮影終了後も、ツーショットを撮りたいとたくさんの青年が総長を囲みましたが、総長は最後の一人まで、目を見てコミュニケーションをとり、笑顔で応えてくれました。この実りの時に感謝！

質問タイムのやり取りや、総長のメッセージ、聖体礼拝中の説教は、SYM JAPANの公式ホームページに全文掲載しています。
ぜひ読んでみてくださいね！
https://sym-japan.themedia.jp/

ナザレのサレジオ会修道院にて、現地のサレジオ会員とオラトリオの若者たちと交流♪

待望の死海遊泳！　お肌が柔らかくなりすぎて、このあと靴ずれする人が多発?!

ヨルダン川は茶色くてぬるぬる…（笑）　川の向こうは隣国のヨルダン

ベツレヘムの生誕教会。イエスが生まれたとされている場所に触れて祈りをささげました

タブハにあるペトロ首位権教会の裏で、ガリラヤ湖に入水！

つながれ！サレジオ青年 SYM JAPAN Salesian Youth Movement Japan
イエスと共に歩いた イスラエル！

2018年8月、SYM JAPANでは2015年のイタリア巡礼以来、3年ぶりの海外巡礼となる「サレジオ青年イスラエル巡礼」を行いました。イエスとマリアゆかりの地と、現地のサレジオ会修道院を巡った9泊11日の旅の模様と参加者の声をお届けします。たくさんのお祈りとご支援をありがとうございました！

主な巡礼地：　ハイファ（カルメル山／ステラマリス修道院）、ナザレ（聖ガブリエル教会／受胎告知教会／聖ヨセフ教会）、カナ（最初の奇跡の教会）、タボル山（主の変容教会）、至福の山（山上の説教教会）、カファルナウム（ペトロの家／イエスが盲教した会堂跡）、タブハ（パンと魚の奇跡の教会／ペトロ首位権教会）、ガリラヤ湖、ヨルダン川、エリコ（ザアカイの木）、ベトレヘム（生誕教会）、エンカレム（聖母訪問教会／洗者聖ヨハネ誕生教会）、エルサレム（オリーブ山／主の昇天教会／主の祈り教会／主嘆き給う教会／ゲツセマネの園／万国民の教会／鶏鳴教会／眠れるマリア教会／最後の晩餐の部屋／ダビデ王の墓／嘆きの壁／聖墳墓教会／聖アンナ教会／ベテスダの池）、エマオなど

ヘロデの離宮・マサダ（要塞）を見学。
考え抜かれた造りに圧倒されました！

今回のイスラエル巡礼をとおして、あらためて言える確かなことは「私はイエスさまを、その命をもって示してくださった愛を信じている」ということに尽きます。

（まりこ　調布教会）

イエスが十字架にかかった丘と、葬られ復活された墓の上に建てられた聖墳墓教会

サレジオ会ラティスボン修道院に宿泊。
小聖堂で夕の祈りと分かち合いをしました

エルサレムの街を望む、主嘆き給う教会。
巡礼中は毎日ミサにあずかりました

主の祈りの教会。
日本語の主の祈りが飾られていて、皆驚き！

イスラエルを巡ってみて、イエス・キリストは確かにいる!と強く感じました。聖地で福音を聞くとき、歌うとき、そしてミサのとき、イエスは目に見えないけれど、私たちと共にいると感じました。

（てーちゃん　聖書学校OB）

毎日ミサに与り、祈り、分かち合い、イエスさまのことを考えて過ごすのは初めてで、未信徒の私にとってはとても新鮮でした。みんなと一緒に祈ることはワクワクするように感じました。

（ゆりの　雙葉学園OB）

キッパをかぶって嘆きの壁へ。
ユダヤ教徒のおじさんとおしゃべり

にぎやかな旧市街をお散歩。
搾りたてザクロジュース、おいしい～

本場・十字架の道行（ヴィアドロローサ）。聖墳墓教会内にある第12留のカルヴァリオの丘

サレジオ会ベイトジャマル修道院にて、
聖ステファノの墓を見学

2019年夏の巡礼は、奄美大島に決定！

「SYM夏合宿2019 in 奄美」

定員15名・7月15日（月）申込〆切
詳細はこちらのQRコードにアクセス！▶
https://forms.gle/UmgqeATg6GjJtXze8

サレジアン スクールライフ! レポート

サレジオ家族の学校の皆さんが学校生活をエンジョイしている様子を、各校のHPやFacebookからご紹介します。

▶ 日向学院中学校・高等学校 （宮崎県宮崎市）

クリスマスの集い

日向学院の「クリスマスの集い」の様子

日向学院中学校・高等学校では、2018年12月21日、クリスマスの集いと終業式が行われました。クリスマスの集いでは、合唱部がオラトリオ「灰色の小羊」を歌い、放送部が聖書を朗読。続いて、中学1年全員によるキャンドルサービスが行われました。今回のクリスマス献金は、サレジオ会総長フェルナンデス神父の来校を記念して、総長が必要と思われるところに使っていただこうと呼びかけて集められ、DBK ドン・ボスコ基金を通して総長に贈られます。

引き続き行われた終業式では、運動部や文化部からたくさんの生徒が全校生徒の前で表彰されました。帰り際には、日向学院のクリスマス名物、チョコレートが配られました。

▶ 星美学園中学校高等学校 （東京都北区）

赤羽×星美クリスマスフェスティバル

星美学園中学校高等学校の「クリスマス・フェスティバル」の様子

星美学園中学校高等学校は、2018年12月23日、地元赤羽の方々とコラボしてのクリスマスフェスティバルを星美学園で開催。星美学園中高の聖歌隊によるクリスマスソングやダンス部のパフォーマンスをはじめ、赤羽で活動する子どもたちのダンススクールや合唱団による発表や、プロのアーティストによるライブペイントパフォーマンスや演奏など盛りだくさんのプログラムで、地域の皆さんに楽しんでいただくことができました。また、イベントの収益金の中から、児童養護施設 星美ホームに寄付金が贈られました。地域の皆さんと星美ホームの子どもたちのために、少しでも役立つことができるこの催しを今後も続けていきたいと思っています。

▶ サレジオ学院中学校・高等学校 （神奈川県横浜市）

受験生応援企画

サレジオ学院のカトリック研究会による「受験生応援企画」でホッとする受験生たち

サレジオ学院中学校・高等学校のカトリック研究会は、2019年1月10日、受験を目前に控えて頑張っている高校3年の先輩に応援する気持ちを伝えようと、「受験生応援企画」を実施しました。カトリック研究会のメンバーは、夜までサビオ館自習室で勉強している先輩たちに温かい飲み物とおやつを提供し、受験生たちはとても喜んでホッとするひと時を味わいました。

▶ 目黒星美学園小学校 （東京都目黒区）

オリジナルムービー 『道標』 ～ドン・ボスコの歌～

目黒星美学園小学校のオリジナルムービー「道標」のひとコマ

目黒星美学園小学校では、毎年1月のドン・ボスコのお祝いに“喜び”をコンセプトに全校児童で「み言葉の祭儀」と「アカデミア」を行っています。アカデミアは、周りの人を喜ばせるために、いただいた才能を披露するという、教育的な意味でもサレジオが大切にしている伝統です。今年はドン・ボスコも登場（!?）して子どもたちも大喜び！　P.A.M.（聖母マリアの小さな使徒会）の児童によるドン・ボスコクイズや、5年生による英語劇「ドン・ボスコは君たちのもの」（歌・ダンスも先生や卒業生によるオリジナル作品）、全校生徒による「Salve Don Bosco Santo」の合唱・演奏などを行いました。

今回の特別企画は「目黒星美オリジナルムービー『道標（みちしるべ）』～ドン・ボスコの歌～」の上映でした。3学期が始まってすぐ、この歌を各クラス4小節ずつに分け、子どもたちが話し合って歌と振りをつけて収録。全部を1曲につなぎ合わせて、皆の笑顔と一致協力の気持ちが詰まったオリジナルムービーが完成しました。先生グループも出演し、子どもたちは大興奮で鑑賞しました。

▶ 都城聖ドミニコ学園高等学校 （宮崎県都城市）

韓国の姉妹校から訪問団が来校

都城聖ドミニコ学園高等学校と韓国の世和女子高等学校の交流会

都城聖ドミニコ学園高等学校では、2019年2月25日、韓国ソウルの姉妹校である世和女子高等学校から生徒30人とキム・フンギ校長はじめ先生方5人が来校し、交流会を行いました。お互いに代表生徒の挨拶と歌やダンス、ハンドベル演奏などを披露。グループ交流をはじめ、礼法着付けや茶道・書道などの日本文化も体験していただきました。通訳には同窓生が協力してくださいました。お互いの文化に対する興味関心が増し、生徒同士の友情も深まって、今後さらに姉妹校の交流が深まることを願っています。

▶ 目黒星美学園中学高等学校 （東京都世田谷区）

災害に備えた携帯トイレの 考案・普及活動等の防災活動で表彰

防災教育チャレンジプランで特別賞を受賞した目黒星美学園中学高等学校の生徒代表

防災教育などの普及や質の向上を目的に始まった「防災教育チャレンジプラン」（防災教育チャレンジプラン実行委員会・内閣府等主催）の2018年度活動報告会・第15回表彰式が2019年2月23日に行われ、目黒星美学園中学高等学校の取り組み「生徒が活躍する『わくわく防災減災』」プランが特別賞を受賞しました。「魔法の携帯トイレ」は生徒らが考案し、2016年の熊本地震の際にも現地に1万7千個が届けられました。

現在も行政や企業、地域等と連携して様々な活動に取り組んでいます。

▶ 大阪星光学院高等学校 （大阪府大阪市）

第8回科学の甲子園全国大会に出場

科学の甲子園全国大会に出場した大阪星光学院のチーム

「第8回科学の甲子園」（国立研究開発法人科学技術振興機構主催）に、大阪星光学院の高校2年（当時）6人によるチームが出場し、2018年10月21日に開催された大阪府大会で見事優勝。実技競技1位の高校に贈られる「大阪工業大学サイエンステクノロジー賞」も併せて受賞し、2年連続の総合優勝、実技競技1位のダブル受賞という快挙を達成しました。

この大会では、筆記競技は理科・数学・情報の知識の活用について問う問題で競い、実技競技はものづくりの能力・コミュニケーション能力などにより課題を解決する力を競います。

2019年3月15～18に埼玉県で開催された全国大会に、同チームは大阪府代表として出場。1日目は筆記競技、2日目は実技競技（地学・化学・ジャイロ自転車レース）に取り組みました。総合成績において入賞することはかないませんでしたが、他校の選手たちとの交流の機会に恵まれ、多くの刺激と学びの場となりました。

青少年

VIDES JAPAN ユースメンバーが韓国で交流

韓国ソウルで開催されたVIDES KOREAのキャンプに参加した韓国と日本の若者たち

VIDES JAPAN（サレジアン・シスターズによって創設された国際的なボランティア団体VIDESの日本版）では、約3年前からユースのグループが活動を開始、シニアの援助を受けながら徐々に活動の場を広げている。2018年11月23～25日、韓国のソウルで開催されたVIDES KOREAの青年が集うキャンプに、日本から4人のユースメンバーが2人のシスターと共に参加。2016年のVIDES国際会議に日本から参加した若者の一人が、韓国のVIDESメンバーにコンタクトをとり実現した。

このキャンプは、韓国全土の支部（ソウル・水原・大邱・昌原・釜山・光州・済州）から「アプローチャー」と呼ばれる大学生や若い社会人が集結して開催。参加者はVIDESメンバーとなった理由や、活動を続けるモチベーション等をグループで語り合い、国の違いを越えて共感し合うことができた。生きていくうえで大切にしたい価値や、未来のVIDESのためにどのように貢献できるか等を分かち合い、祈る3日間となった。また、様々なレクリエーションやソウル市内の観光（徳寿宮・南大門市場・明洞聖堂等）をグループごとに楽しみながら親睦を深めた。

韓国の若者が主体的にこのキャンプを進行し、温かくもてなしてくれたことに刺激を受け、VIDES JAPANのユースたちは2019年度、毎年恒例の夏の錬成会にVIDES KOREAを招待して行う予定。また、日韓合同でモンゴルなどへの海外ボランティアを開催することも検討している。

国内では、昨年度から静岡VIDESや静岡サレジオのサーバント・リーダー、その卒業生とのつながりも続いている。活動資金を得るための作品づくりも始めた。自ら一歩外へ出ることで出会いがあり、大きな家族の中に受けとめられ、自分が世界の中の大切な一員であるという喜びと誇りを持つことができるということを、VIDESのユースメンバーは様々なチャレンジを通して発見し、周囲の人びとに証明してくれている。ユースの活動、カンボジアでのボランティア、星美ホームや貧困の子どもたちのための活動について、VIDES JAPANのウェブサイト（http://fma-videsjapan.com）で紹介している。

教育・福祉

サレジオ会員と協働者との集い開催

協働者の思いや体験に耳を傾ける参加者

2018年1月の初会合に続き2回目となる日本全国のサレジオ会の事業所で働く協働者とサレジオ会員の集いが、2019年1月13～14日の2日間、神奈川県三浦市の研修施設で行われた。日本全国のサレジオ会の学校、幼稚園、保育園、児童養護施設、出版部門の各事業所から、協働者の代表と、サレジオ会の濱口秀昭管区長をはじめとするサレジオ会員、サレジアン・シスターズのシスターを含め、計37人が参加した。サレジオ会員は、協働者の思いや体験に耳を傾け、協働者と共に「ドン・ボスコらしい教育」をどのように実践し、サレジオの使命を果たしていけるのかについて、夢や課題を分かち合った。

サレジオ会日本管区プロジェクトチームの浦田慎二郎神父は、「サレジオ家族協働者の手引き」（仮称）について紹介し、ドン・ボスコの教育法の基本的な用語や考え方について、日本での実践をふまえつつ話し合った。2日目は、北川大介神父が第28回サレジオ会総会（GC28）に関する総長書簡を紹介。今回の集いは、「ドン・ボスコの教育法」をどのように実践できるか知恵を出し合い、参加者が互いの実践や思いに耳を傾け、知ることができるよい機会となった。これらの意見は、今後の管区会議（2019年）と総会（2020年トリノ）に活かされる。

同窓生

扶助者聖母会同窓会 ウニオーネ山中のつどいを開催

富士の聖母にて「ウニオーネ山中のつどい」の参加者

扶助者聖母会同窓会（ウニオーネ）日本管区連合は、2018年10月27～28日、山中湖サレジアン・シスターズ霊性センター（山梨県南都留郡）で「ウニオーネ山中のつどい」を開催。サレジアン・シスターズの学校・施設の同窓生たちが、地域や学年を越えて親睦を深めるとともに、自分自身を見つめ、受けた教育のルーツを探るよい機会となった。ウニオーネ本部デレガータの小島順子シスターは、サレジアン・シスターズの学校創立時のエピソードを楽しい紙芝居形式で語り、当時のシスターがたの苦労を共有した。

2日目は富士山2合目にある「富士の聖母像」を訪問。祈りと聖歌をささげた後、周囲の清掃を行った。天候にも恵まれ、湖畔散策では紅葉と富士にかかる夕日を見て美しさに感動し、創造主の業を思うひと時を参加者は過ごした。

サレジオ同窓会日本連合 2018年度役員会を宮崎で開催

日向学院で開催されたサレジオ同窓会日本連合役員会の参加者

サレジオ同窓会日本連合（サレジオ高専、サレジオ小学校中学校、サレジオ学院、大阪星光学院、日向学院）は、2018年11月17日、日本のサレジオ家族の父チマッティ神父が初代校長を務めた日向学院（宮崎県宮崎市）で2018年度の役員会を開催。各同窓会の代表者と若手を中心とするワーキングチーム、顧問を務める濱口秀昭管区長と各校校長など、全国から31人が集まった。参加者は日向学院の見学ツアーを行い、在校生や同窓生の活躍に触れた。会議のはじめに、2018年11月にフェルナンデス総長が日本を訪問したことを振り返り、日向学院同窓会の浦元孝照会長は宮崎で総長を迎えた喜びについて語った。

日本連合ではワーキングチームを中心に、連合の様々なプロジェクトの検討・実施を進めている。会議では、広報、財務・法人化、2020年アジア大会に関する進捗について、各チームリーダーが報告を行った。吉田博史会長（大阪星光学院同窓会名誉顧問）は「2020年のアジア大会は我々にとって通過点。若手の意見を取り入れながら、各同窓会間の協力と交わりをさらに深め、サレジオという共通の旗のもとに、連合の豊かな未来を切り開くことを続けていきたい」と語った。

会議後は、市内の飲食店に会場を移して懇親会を開催。主の祈りで始まり、日向学院同窓会によるおもてなしに満ちた集いとなった。翌18日には、宮崎の豊かな自然環境の中でゴルフや観光を楽しんだ参加者もいた。

サレジオ同窓会日本連合は、2019年2月、ウェブサイト（https://exdb.jp）を公開した。活動紹介や世界連合の情報、支援の呼びかけのほか、今後は同窓生の紹介コーナーも計画している。

修道会・信徒の会

サレジアン・シスターズ 大船渡教会で子どもクリスマス会

カトリック大船渡教会で行われた「子どもクリスマス会」の様子

2018年12月9日、カトリック大船渡教会（岩手県大船渡市）で、子どもクリスマス会が行われた。小さな子どもから中学生の約20人とベトナムの若者たち、保護者、教会、カリタス大船渡ベースの方々など、合わせて40人ほどが参加。クリスマスソングを元気に歌い、クリスマスの話や「靴屋のマルチン」の物語を聞いた後、クリスマスにちなんだゲームで盛り上がり、最後は手作りのクリスマスカードや大きな菓子袋のプレゼントを嬉しそうに受け取っていた。

この行事は2011年の東日本大震災後から、サレジアン・シスターズが被災地の子どもたちのために毎年続けているもの。子どもたちの成長する姿に頼もしさを感じている。大船渡教会には、大船渡市や陸前高田市周辺からも子どもたちが来ているが、交通が不便でふだん日曜日に教会に通うことが難しい子どももいる。クリスマス会は、カリタス大船渡ベースのスタッフの送迎により皆で共に祝うことができた。

サレジオ家族 サレジオ霊性セミナーを開催

イエスのカリタス修道女会管区本部で開催された東京地区の「サレジオ霊性セミナー」の様子

2019年2月9日、東京地区の「サレジオ霊性セミナー」がイエスのカリタス修道女会管区本部（東京都杉並区）で開催され、小雪が舞う中、サレジオ家族のメンバー約120人が参加した。

春山ミカエルラップ神父（サレジオ会日本管区副管区長）の司会のもと、2019年のサレジオ家族年間目標（ストレンナ）についてフェルナンデス総長のビデオメッセージを視聴した後、三島心神父（サレジオ会）が第1講話を行った。三島神父は「聖なる者になろう」について、教皇フランシスコの使徒的勧告『喜びに喜べ』やフェルナンデス総長のメッセージに言及しながら解説。聖性とは決して難しいものではなく身近なもので、「喜び」「幸せ」であり、イエス・キリストと結びつくことというポイントを強調した。

また、サレジオ家族の聖人168人のうち、若者が46人を占めており、サレジオには喜びとユーモアにあふれ、若者たちと共に歩む人が求められていると語った。

午後の第2講話は阿部仲麻呂神父（サレジオ会）が「よろこびのひびき」と題して行った（詳細は本誌p.8〜9参照）。その後、小グループに分かれ、年間目標について分かち合った。最後に、田村宣行神父（調布サレジオ神学院長）がストレンナをテーマとするラップを披露し、サレジオらしい喜びの雰囲気のうちにセミナーはお開きとなった。

サレジオ霊性セミナーは、大分（別府教会）、長崎（植松教会）でも開催された。

イエスのカリタス修道女会 3・11祈りの集いで聖歌の奉仕

東京カテドラル大聖堂で行われた「思いつづける3.11」の様子

2019年3月11日、東京カテドラル聖マリア大聖堂（東京都文京区）で「思いつづける3.11 〜犠牲者・被災者・避難者のために祈るつどい〜」（カトリック東京大司教区主催）が行われ、追悼・復興祈念ミサでイエスのカリタス修道女会のシスターたちが聖歌の奉仕を行った。

午後2時30分から祈りが始まり、被災地の現在の映像を見て思いをはせ、2時46分の震災発生時刻に合わせて聖堂の鐘の音とともに黙祷した後、菊地功大司教の主司式でミサがささげられた。「被災地に一日も早く春が来ますように、悲しみにある方々、苦しみにある方の心が少しずつでも平和で満たされますように」との祈りを込めた歌声が大聖堂に響き渡った。

ミサ後は、福島第一原発に近い福島県南相馬市で活動する「カリタス南相馬」の責任者である幸田和生司教が、被災地の現状と活動について報告した。

サレジオ会 新しいサレジオ会員が誕生

初誓願を宣立した荒川譲二神学生

2019年3月25日、調布サレジオ神学院（東京都調布市）聖堂にて、サレジオ会日本管区長の濱口秀昭神父が司式するミサの中で、マキシミリアノ・マリア・コルベ荒川譲二神学生が初誓願を宣立し、サレジオ会員としての歩みをスタートした。式には、サレジオ会員や家族、友人、恩人など、聖堂がいっぱいになる約200人が参列し、共に祈りをささげた。

荒川神学生は1991年、福岡県生まれ、カトリック浄水通教会出身。サレジオ神学院院長の田村宣行神父は荒川神学生の紹介を行い、「バイオリンから落語まで、じつに多才な荒川さんは、この誓願にあたって出身地の福岡から長崎まで、日本26聖人の足あとをたどって巡礼しました。終生誓願のときには、ぜひ26聖人が歩いたスタート地点の京都から長崎まで歩いてください」と激励。濱口管区長も「ドン・ボスコのサレジオ会員としていつも喜びをもって、皆と共に修道生活を歩んでほしい」と励ました。

荒川神学生は、サレジオ会員や家族、参列者に感謝の気持ちを述べ、「今日、私は神様の前で自らをささげ、両親も一人息子の私をささげてくれました。これからも皆様のために祈っていきます。私のためにもどうぞお祈りをお願いします」と語り、大きな拍手を浴びた。サレジオ会日本管区に引き続き司祭・修道者の道を歩む若者が与えられるよう、お祈りとご支援をお願い致します。

サレジアン・シスターズ 2019年、来日90周年の年

90年前に初来日したサレジアン・シスターズの6人の宣教女

90年前の1929年10月22日、6人のサレジアン・シスターズ宣教女がイタリアのジェノヴァ港を出港し、同年12月14日、54日の航海を経て神戸に到着した。2019年12月14日は来日90年目にあたる。

昨年12月14日、サレジアン・シスターズ日本管区の全共同体が、90年間の各年の記念写真を見ながら記念の開始の祈りを捧げ、今年12月14日までの1年間を「喜びと感謝」をテーマに過ごしている。

2019年4月には、教皇庁立アウジリウム大学教授で歴史家のシスター・ロパルコの研修会が行われた。また、日本担当の視察訪問総評議員のシスター・フィリスの公式訪問、10月には総長シスター・イヴォンヌが来日し、「サレジオ家族の集い」が調布で開催される予定。赤羽での「若者の集い」も計画されている。

サレジアン・シスターズ日本管区公式ホームページ（http://www.salesian-sisters.jp）に「来日90周年記念サイト」が開設されている。

ドン・ボスコの風 Salesian Bulletin Japan No.22 May 2019

2019年5月24日発行（年2回5月・10月発行）

編集人　関谷 義樹
発行人　濱口 秀昭
発行所　カトリック・サレジオ修道会
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
電話：03-3353-8355　Fax：03-3353-7190
Eメール：dbw@salesians.jp
編集・デザイン制作　ドン・ボスコ社
印刷所　日之出印刷株式会社

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© カトリック・サレジオ修道会 2019

「ドン・ボスコの風」について

「ドン・ボスコの風」はサレジオ会創立者ドン・ボスコが1877年に創刊した" Bollettino Salesiano" の日本版。サレジオに関わる人びとの生き方や活動を紹介し、サレジオ家族の絆を深めるサレジオ会広報誌です。

本誌をご希望の方へ　ご寄付のお願い

本誌をご希望の方は、上記奥付の「ドン・ボスコの風」編集事務局までお申込みください。本誌は無料配布ですが、趣旨にご賛同くださる皆様のご支援をお願いします。下記の振込口座まで（または本誌綴じ込みの払込用紙にて）ご寄付いただいた方には次号より1部贈呈いたします。

郵便振替口座番号　00100-7-412947
加入者名　「ドン・ボスコの風」編集事務局

次号No.23は
2019年10月発行予定です。

「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ http://salesians.jp（トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」）でご覧いただけます。

編　集　後　記

漢字の「聖」の語源を調べてみました。この字は、もともと耳と口、それから壬（王）から成り立っていて、口は祈りの言葉、壬は背伸びした人の形で、神の声に耳を傾け、それに応える人（ひじり）のことを表すとのこと。私たち一人ひとりが、聖なる方（神）からの聖なる招きがあることに、もっともっと気づいていけたらと思います。
Holiness for you, too!　（S）

サレジオ情報の投稿をお待ちしています!

プレゼント付き!

本誌へのご意見やご感想、またサレジオ家族の学校・施設・活動グループ・教会・修道院での出来事の写真とコメントを、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・ご希望のプレゼント（下記A〜B）を明記し、お送りください。

ご記入いただいた個人情報は賞品発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

応募締切 2019年10月31日
【Eメール】dbw@salesians.jp
【F A X】03-3353-7190（「ドン・ボスコの風」編集事務局宛）
【ハガキ】〒160-0011　東京都新宿区若葉1-22-12
サレジオ会日本管区本部　「ドン・ボスコの風」編集事務局

A 『光の人』

ドン・ボスコの生き方を体現し、戦災孤児たちと共に未来を切り開いて生きた男がいた。NHK「プロジェクトX」の名プロデューサーがどうしても書きたかった、実在の人物をモデルにした「愛」と「再生」の物語。（本誌p.10〜11で紹介）

今井 彰 著　四六判上製　346頁　文藝春秋

B 『使徒的勧告　喜びに喜べ 現代世界における聖性』

今年秋に来日する教皇フランシスコから、すべての人に贈るメッセージ。今年のサレジオ家族年間目標「聖なる者になろう」のベースであり、聖書のイエスからの招きだ。日常生活の中で、神と隣人への愛によって歩む生き方を説く。

教皇フランシスコ 著　四六判上製　144頁　カトリック中央協議会

つくっちゃいました♥
LINEスタンプ「ドン・ボスコくん!」
ユーザー続々増加中!

ダンディなのにお茶目でハートフルなドン・ボスコくん。たまに登場する愛犬グリージョ。日常会話にほっこり笑顔を咲かせチャオ!

スタンプショップへGO!「ボスコ」で検索!　https://line.me/S/sticker/4593837

今、私「○○」しています！

サレジアン・シスターズ修道女

赤木 純子 シスター

Sr. Junko Akagi

「青少年の救いのために働くシスター」をしています！

SYM JAPAN サレジオ青年イスラエル巡礼（2018年8月）に参加した若者たちと

ドン・ボスコとの出会い

私は「黒住教」大分教会所の娘として生まれ、幼い頃から神殿の前が遊び場でした。黒住教は昇る朝日を拝み、感謝と感動の心で誠を尽くすことを日々のつとめとする宗教です。祖父は私に神様のことを教えてくれました。「山や木は神ではない。神の御業なのだ」と。

高校は親の希望でサレジアン・シスターズの明星学園*に通い、卒業後は地元の短大に進学し幼児教育の教員免許を取得した後、カトリック大分明星幼稚園に就職しました。心に変化があったのは、研修会のため渡されたオフレー著の『ドン・ボスコ』を読んだときです。夢中で読み終わった後に、「私も救われたい。これはキリスト者になれということなのかな」と感じました。

「はい」と答えた聖母にならって

その頃、サレジアン・シスターズ別府修道院が黙想会を開催し、幼稚園の主任のシスターに誘われて、好奇心旺盛な私は修道院の中見たさに行くことにしました。黙想会のはじめに、1枚のマリア様のご絵をいただきました。裏に「神様の招きにいつも『はい』と答えた聖母に倣おう」と記されており、「私も今からそうしよう」と決心しました。黙想中、イタリア人の院長シスターと面談しましたが、日本語がよくわかりません。失礼にならないようにと思って「はい」「はい」と答えていたら、信者になるための勉強を始めることになっていました。断らない決心をしたばかりだったので、承諾しました（笑）。それから教会に行きはじめ、青年会に属して、とても有意義な日々を過ごしました。

私もシスターの仲間になりたい

23歳の時、両親に内緒で洗礼を受けました。知られた後が大変でした。父は親戚中に電話をかけるぐらい大慌て。友達もたくさんいて、働いているのでお金も自分の車もあり、人生を謳歌しているのに、心の中で何かが欠けているのを感じていたのです。何となく癒えない疲れを感じていたときに、教会の仲間たち、宗教的な本に価値を見いだし、なによりもドン・ボスコに夢中になり、私も彼のように青少年の救いのために働きたいと願うようになり、それが自分の喜びであることに気づいたのです。家を出る覚悟で荷物を車に全部乗せ、両親に「シスターになりたい」と伝えました。家族会議が開かれました。私は来日50周年の記念誌を見せ、「たった6人の外国人のシスターが学校教育をするまで発展するということは神様の業としか思えない。私もその仲間になりたい」と話しました。結局すぐには許可が出ず、ようやく2年後に許されて25歳で入会しました。

神様が望むのであればそうなる

私の確信は、神様が望むのであればそうなるということです。修道生活をおくる上でも、未信者の時に出会った聖母の「はい」に倣おうと決心したことが支えになっています。不思議ですが、「はい」ということで、自分の力ではできないことができていくのです。神様はちゃんと必要な恵みと助けを与えてくださいます。

今、青年たちと関わる機会があって、とても嬉しいです。ドン・ボスコが「君たちが若いということだけで君たちを大切にする」と言ったように、私も出会う青年たちが大好きです。彼らが自分の道を喜んで歩いていけるように、壁にぶつかったら乗り越えられるように、いつも祈っていきたいです。

赤木 純子 あかぎ じゅんこ
Junko Akagi

大分県生まれ。カトリック大分明星幼稚園教諭の時に受洗し、サレジアン・シスターズに入会。幼稚園教諭（大分・別府・赤羽）、養成関係などを経て、現在、サレジアン・シスターズ調布管区長館勤務。調布教会日曜学校。趣味は読書と車の運転。特技はアーチェリー。

*サレジアン・シスターズが経営母体だったが、1998年に経営を降り、現在は学校法人別府大学明豊学園となっている。

ありがとう！藤川長喜神父 ひょんなことから神へと導かれた人生

2018年11月2日、サレジオ会司祭 ステファノ藤川長喜神父が、硬膜下出血のため帰天した。ひょんなことから始まった召命の道は、さまざまな重責を担う道となり、自分を神に明け渡していく人生であった。

（編／サレジオ会・編集部）

修練長時代に担当したかつての修練者に囲まれて。
左から濱崎師、阿部師、藤川師、西本師。（2015年6月撮影）

「神よ、あなたにゆだねます」

藤川師は1943年（昭和18年）大阪市で生まれ、異父異母6人兄弟の5番目でした。父は台湾出身で、藤川師の元の名は呉長喜。30歳で日本国籍を取得した際、母方の姓を取って藤川長喜と改名しました。

公立高校の受験に失敗し、家から一番近い私立高校の大阪星光学院に入学したことが、キリスト教そしてサレジオ会との出会いでした。入学直後、サレジオ会修道士に文学好きを見込まれ、「西洋文学を深く味わおうと思うたらキリスト教知っとくと得するで」と誘われてカトリックの教えを学び始め、数か月後に受洗。洗礼名を聖ステファノにした理由は「記念日がクリスマスの後（12月26日）だから誰も気にとめない。そして最初の殉教者というユニークさ」でした。さらに2か月後、同修道士に「神父になってみいへんか!」と言われて驚くも、数か月考えた末「ハイ、なります」と返答。本人曰く「ひょんなことからミッションスクールに導かれ、ひょんなことから洗礼を受け、ひょんなことから神父への道へと招かれるようになった」。家族は大反対でしたが、後に家族も藤川師に導かれて受洗しました。

修練期は東京都調布市で、実地課程は大分県中津市のドン・ボスコ学園（現聖ヨゼフ寮）で送りました。上智大学で神学を学び、31歳で司祭叙階。翌1975年から1986年まで母校の大阪聖光学院にて倫理を教えました。

1987年から8年間、調布で修練長として誓願前の若者たちと関わり、四谷支部院長と管区秘書、調布サレジオ神学院院長を経て、1997年から2002年までサレジオ会日本管区長として会員を導きました。2004年からカトリック調布教会の主任司祭を11年間務めましたが、2013年2度に渡る心臓の大きな手術を受けました。

2016年から足立教会の協力司祭、翌年から主任司祭を務めていました。2018年10月18日、朝のミサ準備中に、急に顎と胸に激しい痛みを感じ、すぐに病院に搬送されましたが、医師の問診中に意識を失いました。急性硬膜下出血で手術が施されましたが、意識が戻ることなく同年11月2日に帰天。享年75歳でした。

面倒見がよく、細かいことに気づき、心遣いのできる人でした。主任司祭として、弱い人や病気の人に同伴し、時間を取って病院や自宅へ自転車で回っていました。また繊細な感性をもち、さまざまな芸術に造詣が深く、人間に対して深い洞察をして説教や芸術に活かし、表現していました。特に演劇が好きで、脚本を書き、また自ら演じることによって多くの人を楽しませました。

無邪気さとシャイな性格を持ち合わせた人間味あふれる人で、「人間には人一倍関心があり、好きでたまらないくせに、関わりとなるとどこか醒めた、一定の距離を置く人間」と自身のことを表現しています。埋めようもない孤独を感じ、それを持て余していることを恐れずに表現し、しかし人間は神から愛されている存在だということを信じていました。

「キリストを信じ、神に捧げられた私たちは神に自分自身を明け渡した存在です。受洗の時だけでなく、自分の人生を振り返ってみて、私たちが神の摂理によって導かれてきたことに気づきたいと思います。そこに気づけば気づくだけ、神に自分を明け渡すことができるでしょう。神は、自分に明け渡した者を見捨てることはないばかりか、より深い配慮と摂理で導き、これからも守ってくれるに違いありません」。（調布教会だより「シャローム」 No.192より）

ステファノ
藤川 長喜 ふじかわ ながき

1943年8月9日大阪市生まれ。1974年10月12日司祭叙階。大阪星光学院で奉職後、修練長、神学院院長、管区長を務める。2004年よりカトリック調布教会主任司祭。2017年よりカトリック足立教会主任司祭。2018年11月2日帰天。修道生活53年。司祭生活44年。享年75歳。

ドン・ボスコの風
No.22 2019年5月 年2回発行 Salesian Bulletin Japan MAY 2019
発行／カトリック・サレジオ修道会「ドン・ボスコの風」編集事務局 〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12 TEL:03-3353-8355 FAX:03-3353-7190 Eメール:dbw@salesians.jp

聖なる者になろう

Holiness for you, too

わたしの喜びがあなたがたの内にあるように　ヨハネによる福音書15章11節

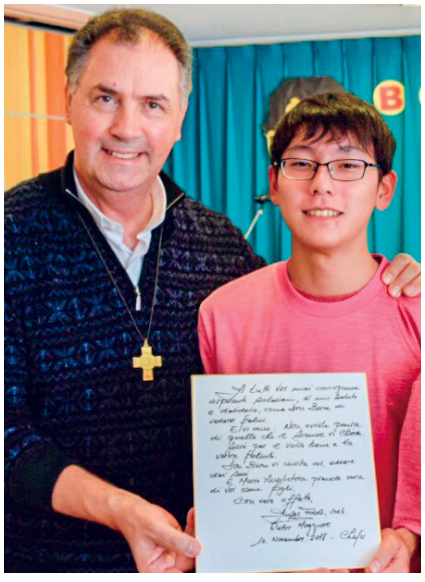
So that my joy may be in you *(Jn 15:11)*

私たちは一人ひとり、造り主の息吹(いぶき)を内にもっています。皆、愛のために生まれました。聖人たちはここにいます。日常生活の中で小さく偉大な奇跡――おしみない広い心、温かさ、人に深く共感すること――を行っています。

聖なる者になるようにという呼びかけに応(こた)え、一人ひとりがそれをはぐくまなくてはなりません。喜びと平和のある新しい世界を築くために。イエスは、すばらしい人生を歩みたいという望みを目覚めさせます。聖性は、すでにあなたの内にあります。誠実に仕事をし、人との関わりを大切にし、家族を愛し、内面の生活をはぐくむこと、これが日常における聖性です。

ドン・ボスコは言います。「私の望みはただ一つ、君たちがこの世で、そして永遠に幸せであること」。いつも、永遠に、何があっても、私たちを愛してくださるのは、神だけです。聖なる者になることは、幸せであることです。いのちのすばらしさを余すところなく生きることです。人間らしさを奪うものではありません。私たちの弱さを、神の恵みが包んでくれることです。

人生はどのような困難があろうと、生きる価値のあるものです。幸せであるとは、毎朝、いのちの奇跡を神に感謝すること。自分の気持ちに素直であること。批判を恐れないこと。自由に、喜びをもって、単純に生きること。「私が間違っていた」、「ゆるしてほしい」、「あなたが必要」、「あなたを愛している」と言える勇気をもつことです。幸せをあきらめないで。人生はすばらしいのです。



2018年11月　日本訪問中のフェルナンデス総長

サレジオ会総長
アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

ストレンナ2019ビデオメッセージより要約